

ツマグロヒョウモン (*Argyreus hyperbius*)

♀の斑紋異常型 尾崎 勇

1977年9月上旬竜野市で母蝶採集、自宅で採卵飼育した内の1♀である。

前翅表面の翅端に近く前翅を斜向する白帯の前縁部近くの白紋が痕跡をとどめる程度に消失している。前翅表面第3室の黒色紋は大きくなり、第4室の2黒色紋は融合している。後翅表面外縁に添う黒色紋とその内側の黒色紋が融合している。

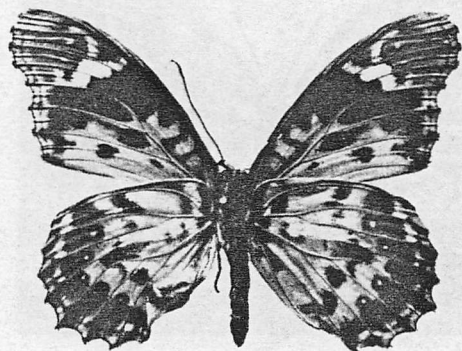
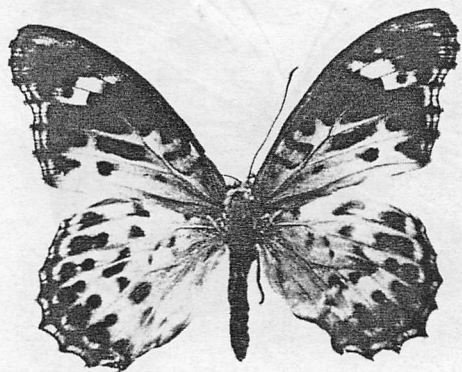
前翅裏面翅端近くの銀白色紋2ヶが消失し中央部の黒色紋は外縁に向って流れている。

後翅裏面の銀白色紋は肥大化し黒色線紋は消失し、中室端の黒色線紋は肥大し、黒色紋となっている。前翅長3.4cmの狭小個体である。

羽化年月日: 12. 1. 1977.

飼育者・川崎 悟 良

標本保管者・尾崎 勇

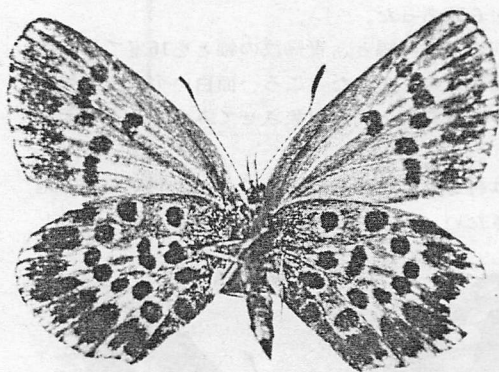


## ヒメシジミの異常型

佐々木 薫

筆者は1977年7月16日に長野県大町市鹿島にてヒメシジミの異常型1♀を採集したので報告する。

この個体は、通常見られる前後翅裏面垂外縁の橙色紋が消失し、黒色になっている。(標本は筆者所蔵)



## エゾスジグロシロチョウの採集記録一例

広畑 政 己

筆者は、兵庫県宍粟郡一宮町上野田にて本種を採集したので報告する。

採集地点は標高約200mの、集落の中を走る道路上で、本来本種が好んで生息する環境とは異なるが、近くに山林を控えていることから、林縁の生息地から飛来してきたものと思われる。

本種の他には、モンシロチョウを2♂採集しただけで、スジグロシロチョウも見かけず、本種も1♂を採集したにすぎない。

本種は、スジグロシロチョウときわめてよく似ており、ややもすれば見間違いをする程同定が困難な種でもある。この度採集した個体は、一見してエゾスジグロシロチョウとわかるものであったが、念のため発香鱗、発香囊を調べた上で報告をした。採集記録は次の通りとなっている。

一宮町上野田 15 IX 1978 1♂ 広畑政己

尚、本種を同定するに当って、発香鱗、発香囊による判別方法を御教示下さった新川勉氏にお礼申し上げる。